

## (別紙) 成果報告書

### フィールドワーク 浜通りの町並み保存と観光資源化 ～浜通りフォーラムを母体とした地域再生の実践～

静岡大学地域創造学環

引率担当教員：准教授 太田隆之

参加学生：(地域経営コース1年) 豊住太一、佐々木直人

(地域共生コース1年) 大野美晴、藪野華奈、大橋彩香、袴田朋伽、宮澤大己

(アート&マネジメントコース1年) 松永千里

(スポーツプロモーションコース1年) 金森彩葉、宮川佑紀乃

#### 1 要約

市役所と地元住民、企業が連携した地域再生の計画づくりを行うため、H28年秋から浜通り活性化フォーラムが立ち上げられた。本事業では、こうした活動推進の一環として、まちあるきを通じて地域資源調査を行い、地域主催のワークショップに参加することで、住民のみなさんの浜通りに対する想いを確認した。

#### 2 フィールドワークの目的

浜通り地域には、魚商人が築いた運河や蔵のある町並みが残り、かつては小泉八雲が滞在したことなどから、焼津の文化発祥のエリアであったと言われている。しかし近年は高齢化と人口流出により、地域の活力低下が懸念されている。

そのため本事業では、地域資源を活かしながら浜通りを人々が訪れるエリアとするため、浜通り活性化フォーラムと連携し、地域づくりの実践を行う。今年度は、浜通り地域の把握と地域住民に学生参画の存在を知ってもらうことを目的としたが、次年度以降は市や浜通り活性化フォーラムの方針に沿って、フィールドワークを展開する見込みである。

#### 3 フィールドワークの内容

(A：予定どおり実施できた)

##### 1) 実施日程

第1回10月30日 フィールドワークガイダンスと浜通りのまちあるき①

第2回11月27日 浜通りのまちあるき②

第3回12月21日 焼津市の施策レクチャー

第4回1月7日 第1回浜通りワークショップ参加

【先進地視察研修】2月11日 愛知県半田市

## 2) まちあるきの実施

10月30日、11月27日の2回に分けて、NPO浜の会の清水会長のガイドによりまち歩きを行った。市役所を起点とし、古くからある焼津港を一望できるポイントや大漁祈願、漁師の安全を祈念する船玉浦神社の説明を受けた。この神社は漁業に従事する焼津市民の信仰の中心的役割を担い、毎年7月には神事が取り行われている。次に小泉八雲が夏の間暮らしたという邸宅跡や碑の前で語り継がれている八雲の生活の様子を解説を聞き、漁師が海上安全、豊漁祈願、災害の除難を祈願するために集まってきた護心寺を訪れた。

海岸線と平行した浜通りは、過去何度も高潮の被害を受けている。そのため高潮の被害を防ぐ生活の知恵が、家屋の構造にも見られる。まちあるきの中で見学させて頂いた古くからある鯉節の加工事業所では、間口の両側の柱に溝が切っており、高潮の恐れがあるときには平板をはめこんで敷居を高くする構造になっていた。また道路に面した間口は小さいが、奥行きがある造りが昔ながらの焼津の家屋の特徴だという。これは当時、間口の幅の広さで税金が掛けられていたことに起因する。その他、通りにいくつか見られる波除地蔵や庚申塚の解説を聞き、通り沿いのなまり節製造会社の存在を確認した。

一部の学生は看板に記載されている屋号や家紋のデザインに興味を持ち、歴史ある町並みの資源のひとつの要素になるのではないかと感想を述べていた。地域の実情を詳しく認識していない中で、まちあるきは、観光客の視点での感想に過ぎないものの、地域の素材を活用するソフト面の企画を求める意見や住民参加の意欲が浜通りにどの程度あるのかなど、各自の視点から「浜通り」というフィールドに注目している学生が多かったように感じられた。



写真1 浜通りのまちあるきの様子



写真2 高潮の被害を防ぐ家屋の造りを学ぶ



写真3 交流施設の候補地見学



写真4 NPO浜の会の方から浜通りの変遷を聞く

### 3) 浜通りワークショップへの参加

1月7日に開催した浜通りワークショップには、NPO浜の会の会員、一般市民、市役所職員、本学学生らが参加し、6班に分かれて実施された。学生は各班に2名ずつ程度加わり、グループ内で意見を交わした。

ワークショップの様子としては、ある班では浜通りの昔話に花が咲いたことから、賑わっていた頃の街の様子をグループ内で共有し、今後活用できそうな地域資源の発見があった。また「今後浜通りをどのような地域にしたいか」という地域の将来像を自由意見で聞き取った際には、「人々が集まる場、観光客で賑わう地域にしたい」「昔ながらの暮らしをこれからも大事にしたい」「子どもたちが外で遊べる空間にしたい」「焼津の食文化を感じられ、食べ歩きができる通りにしたい」といった意見が出た。インフラ面のハード整備を求める声もあったが、総じて住民参加で取り組めるキーワードが数多く出た点は、次年度以降、連携対象が市役所・NPO浜の会に加え、一般住民にも広がる可能性を感じた。

学生の参加が叶わなかった2回目以降のWSでは、第1回ワークショップで検討した地域の理想を目指す場合、何が障害となりそうか、なっているかを話し合い、課題を明確にした。また、NPO浜の会が立案した企画の報告会が行われ、住民がその発表に耳を傾けた。

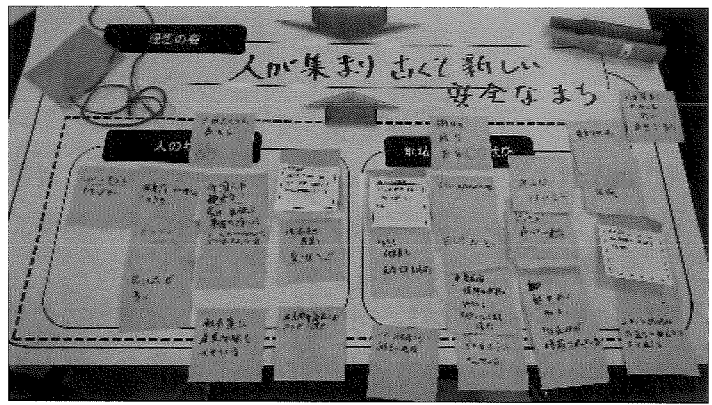


写真5 写真6 浜通りWSの様子と議論した内容

### 4) 先進地視察

浜通りの活性化を目指したまちづくりへの参考とするため、先進地視察研修会を計画し、視察先には愛知県半田市を選定した。視察実施の主たる目的としては、市民中心で取り組まれている有形文化財の保存活動、運河周辺の景観維持とそれに合わせた公共空間の活用、空き家の利活用を起点とした地域のにぎわいづくりの実際を知ることである。本視察には焼津市民20名と本学学生8名の延べ28名が参加した。

当日はまず、一般社団法人半田赤煉瓦倶楽部やNPO半田市観光協会の案内のもと、半田赤レンガ建物保存活動と運営の視察を行った。続いて半田運河周辺の景観維持とその活用の実情を視察した。最後に半田市北部に位置する亀崎地区において、地元NPOを中心とした空き家の利活用や大学生と連携したまちづくりの様子を視察した。

参加者は「半田地域と同様に、浜通りにもよい資源がたくさんある。それを改めて掘り起し、大学生のような若い人たちを巻き込んで活動を発展させていきたい」と感想を述べていた。学生においては「普段訪問しているフィールドワーク先とまた違った取り組みを知ることができた。特に亀崎地区は、浜通りと似たような趣を持ちながらも、空き家のリノベーションや移住定住への工夫など、一歩先を進んだ取り組みを行っている。うまく真似して浜通りの活性化にも取り入れられないか」と話していた。

上記のことから、参加者らは住民自らが地域資源に関心を持ち、当たり前だと思っていたことを改めて見直すことが重要だという気づきを得ていた。また行政や大学など、外部の協力を適切に活用していくことに加え、年配者の知恵や経験を活かすためにも、発想力や行動力のある若者を巻き込んでいくことが必要だと受け止めていた。このようなことから、本視察は今後の浜通りのまちづくりに結びついていく経験になったと考えられる。

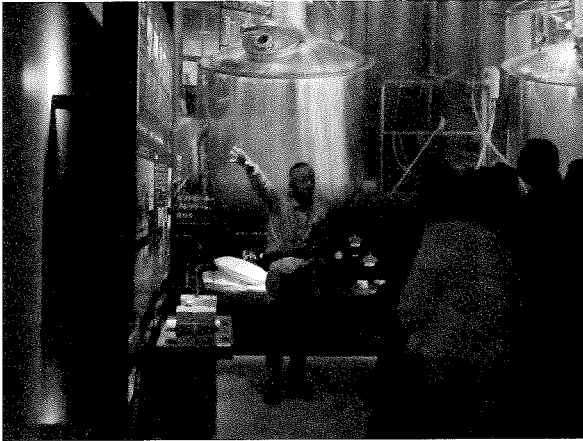


写真7 ミツカンの醸造所を見学



写真8 半田運河を見学

#### 4 フィールドワークの成果

- ① NPO浜の会の案内によるまちあるきを実施し、対象となる範囲と現存する物的資源の把握ができた。
- ② ワークショップに参加し、幅広い人々の意見を聞くことができ、浜通りの方が抱く地域の将来像を理解することができた。
- ③ 先進地事例に参加し、市民中心による運河周辺の景観維持や空き家の利活用を見学した。
- ④ 浜通り活性化フォーラムの計画を理解することができ、次年度以降の連携のイメージができた。

#### 5 地域への提言

- ・ 浜通りの町並みを住民が点検する機会を設定するとよい。
- ・ ワークショップでは地域づくりへの意欲のある方が集まり刺激を受けたが、若者や女性の参加が少なく、こうした層の声を反映できるようにしたい。

#### 6 地域からの評価

何か自分たちで考え、決め、責任をとるような取組をしてみたいような印象がある。イベントなどでもよいが、現状や課題、有効な手段の分析をしたうえで、自分たちで、行動し、成果を出してみたいという機運が見受けられた。